

中学3年1組 国語科学習指導案

指導者 永野信吾

【本時で目指す子どもの姿】

学んだ論理の展開の仕方をいかして、自分の表現にいかそうとする姿

【具体的な手立て】

ディベートを文字化したものを使い、具体的な論理の展開の仕方について考える

1 単元名 論理の展開をとらえ、説得力を高めよう ～よりよいディベートに向けて～

2 単元のねらい

論理の展開の仕方を理解し、説得力のある話し方をすることができる。

3 授業の構想

(1) 学期末に行う振り返りの中に、「来学期の国語の時間に取り組んでみたい活動は？」という項目を設けているが、回答を見ると、学級の20%前後の生徒が「ディベートをやりたい」と答えている。日常生活の中では言い争う場面はほとんど見られないが、ディベートというゲーム形式の中では、相手と意見を戦わせ、それによって勝敗が決まることに楽しさを感じている生徒は多いと思われる。以下に示すふりかえりは、2年生3学期に「走れメロス」について行ったディベートのまとめとして振り返ったものである。

このテーマはとても難しかったし、相手の力も大きかったので負けてしまいました。自分も話すことの整理がちゃんとできていなかったのも、意味不明なことばかり話してしまいました。負けてしまったのはとても悔しいので、またきちんと考えてからディベートしたいです。(生徒A)

どの意見も根拠があるなと思いました。でも、同じ根拠をもっているのに、その根拠をどう捉えるかによって意見が逆になったり違ってきたりしました。そうすると相手を納得させるのは難しいと思いました。私はその人が言ったことの意味を整理するのに必死で発言することができなかったので、要点をスムーズに捉えられると良いです。(生徒B)

実際のディベート場面で、生徒Aは積極的に発言はしていたものの、相手の質問に正確に答えられてはいなかった。また、生徒A自身の発言も単発的なものに終わっていた。一方、生徒Bは、同じ部分を根拠としていても、見方によって意見が180度異なるものになることを指摘している。そして、相手の意見を受け止め、それにあった反論を行うことの難しさを感じながら、そうできるようになりたいという思いを表している。この二人に限らず、ディベートには熱心に取り組む生徒が多く、発言場面では意欲的に自分の意見を述べる姿が見られる。しかし、その発言は、自分のもっている情報や、自分の考えを一方向的に訴えているものが多く、相手との議論がかみ合っていない場面もしばしば見られる。熱心に発言するあまり、感情的になってしまう生徒もいた。これらの実態をふまえると、自分の意見を論理的に組み立てたり、相手の意見を正確に受け止め、それにあった対応をしながら、反論していく力をつけていく必要があると感じられる。本学校園の国語科では、研究主題「学び続ける子どもの育成」を受け、

何を伝えたいかという「目的意識」に加え、相手のことを考えて自分の言動を決めていく「相手意識」が、より深い「問い」を生み、その経験を繰り返すことが言葉の力の高まりにつながると考えて実践を続けている。しかし、子どもたちの実態を見ると、これを伝えたいという「目的意識」は強いものの、これを相手はどう受け止めるのか、どのように伝えれば相手にうまく伝わるのか、といった部分の考えが浅く、「相手意識」を高めることの必要性が感じられる。

(2) 本単元では、ねらいを「論理の展開の仕方を理解し、説得力のある話し方をすることができる。」と設定し、その実現のために第3次にディベートを取り入れた。子どもたちが「またやりたい!」「楽しい!」「次は勝ちたい!」と感じるディベートを取り入れることで、「自分の言いたいことを伝えるにはどのようにすればよいか」「どうすれば相手を納得させることができるのか」という問いをもち、より良く伝えるための方法について、意欲的に学んでくれることが期待できると考えたためである。2年生で行ったディベートでは、自分のもっている情報を根拠に一方的に主張するものが多く、相手からの質問に的確に答え、それをふまえた上での反論ができていないものは少なかった。まずは、当時の録音を文字化したものを示し、かみ合っていない議論の実態を伝え、それを解決するためには、論理の展開をとらえ、流れに応じた反論や主張をする必要があることを理解させたい。その上で、三角ロジックを用いた論理の展開の仕方について基本を学ばせる。次に、第2次では、実際にディベートで行われた討論場面を文字化したものを使い、その先にどのようなやり取りがなされたか、予想させ、ワークシートを使って各自の考えを見える状態にする。それを持ち寄ることで、どの意見が一番有効であるか、そしてそれはなぜかをグループで話し合わせる。その後、実際に行われたディベートの続き(文字化したもの)を見て、自分たちの考えがどうだったのか、ふりかえりをさせたい。ここで大事にしたことは、子どもたちが自分なりの意見をしっかりと持つことである。まずは「自分ならこのように主張する」という意見を全員にもたせたい。そして、なぜそのように主張するのかという理由も準備させたい。その上で、各自の意見を比べ、どれが本当に有効なのか話し合うことで考えが深まり、実際のディベート場面に生きてくると考えるからだ。

4 展開計画 (全7時間 本時7/7)

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿
1	1 2 3	○論理の展開に着目して読もう ・2年次のディベート記録を読み、課題に気づく。 ・短い文章から論証を見つけるトレーニングを行う。 ・根拠と論拠の違いや論拠の種類を知り、実際の文章の中から論拠を見つけるトレーニングを行う。	◇意見がかみ合っていないことや主張の繰り返しになっていることに気付く。 ◇論拠を見つけ、法則、価値、状況などに分類することができる。
2	④	○紙上ディベートで反論しよう ・肯定側の立論を分析し、反論を考える。	◇肯定側立論の根拠または論拠のどこをどのように攻めるか、自分なりの考えをもつことができる。
3	5 6・7	○ディベートをしよう ・論題を聞き、作戦を立てる。 ・ディベートの試合を行う。	◇相手側の主張を正確に捉えた反駁ができる。

5 本時の学習

(1) ねらい

相手の意見を押さえ、自分の意見を納得させるために、友達と話し合いながらよりよい論理の展開の仕方について考えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p>	<p>・前時に学習した根拠・論拠・主張の関係について掲示し、内容を想起させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">論理の展開を考えて反論しよう。</div>	
<p>2. ディベート肯定側立論を文字化したもの見て、否定側の反駁を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定側立論の根拠・論拠・主張を分析する。 ・否定側としてどう反論するかワークシートに記入する。 ・肯定側の主張を崩すため、どこをどう攻めるのが効果的か考える。 <p>◎単に自分たちの主張を述べるだけでは有効な発言にはならない。肯定側の根拠や論拠の弱い部分を攻めるのが効果的である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定側立論を文字化したプリントを配る。 ・ワークシートを配り、肯定側の立論を三角ロジックに当てはめてみるよう指示する。 ・これまでの学習をもとに、まずは個人で考え、次にグループで話し合わせる。 ・考えをもつことが難しい生徒には、第1次の学習を想起させ、どんな発言が可能か考えさせる。
<p>3. ディベート否定側反駁を文字化したものを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の反駁の方が有効だ。 ・なるほど、こんな反駁の仕方もあるのか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（話すこと・聞くこと）</p> <p style="text-align: center;">学んだ論理の展開の仕方をいかして、自分の表現を考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> </div>
<p>4. 本時をふりかえる。</p> <p>◎いろいろな人の意見を聞いて、自分が意識していなかった反駁の仕方に気付くことができた。</p>	